

単元名 ペットボトルで芝を育てよう

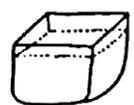
単元のねらい

- 家から持ってきたペットボトルを使って芝を育てることにより、芝生に関心を持ち、大切にしようとする態度を養う。
- 植えた芝を観察して、育っていく楽しさに気付かせ、芝に愛着をもって育てる態度を養う。

学習活動 ペットボトル芝生の作成

- 1 本時のねらい
 - 自分のペットボトルに芝を植えることで、芝生に愛着をもたせる。

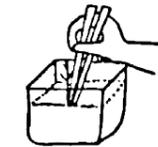
2 展開

	学習活動	◆指導上の留意点 ○評価規準（評価方法）
導 入	1 道徳の授業で学習した「ほくの、あさがお」の話を思い出し、身近な植物を大切にしようとする気持ちを振り返る。 2 一人一人がペットボトルの鉢を使って芝を育てることを知る。 3 ペットボトルを使った芝の植え方の説明を聞く。 ・早く作ってみたい。 ・アサガオみたいに大きくなるといいな。	◆道徳「ほくの、あさがお」（東京書籍「道徳1年」）で学んだことを振り返らせる。 ◆以前に学習した身近な草花の仲間に芝があることに気付かせる。 ◆アサガオを育てているので、同じ植物の芝の育ち方に興味をもたせる。 ◆アサガオのように花は咲かないが、育った芝が校庭の補植に使われることを説明する。 ◆プリント「ぺっとほとるしば生のつくりにかた」を使って説明する。 ◆アサガオは種から育てたが、芝は種ではなく苗から育てることを説明する。
展 開	4 ペットボトルに芝を植える。 ①ペットボトルに赤土を8分目まで入れてならず。 	◆事前にペットボトルを切った鉢を作っておく。 ◆赤土はバケツなどに小分けにして、児童が自分で量を見て入れるようにする。

②水をかけて土を湿らせる。



③苗を植える。



④肥料をまく。



⑤ペットボトルしば生を作った感想を発表する。

- ・早く大きくならないかな。
- ・ふかふかのしば生になるかな。
- ・校庭に植えたらどうなるかな。

◆赤土はとても水はけがよく、水が漏れやすいので注意するよう助言する。上手にできない児童には教師が支援する。

◆割り箸を使ってしっかりと土の中に押し込むよう助言する。上手にできない場合は、苗を並べて上から土をかけるだけでもよい。



◆肥料を一つまみだけ入れるよう助言する。入れすぎると弱ってしまうことを伝える。
 ○芝を植える作業を通じて、芝に愛着をもち大切にしようとしている。（観察、ワークシート）

ま と め

5 芝の育て方や手入れの仕方の説明を聞く。最後に実際に水をあげる。
 ・アサガオと同じように、毎日水をあげなきゃいけない。大変だな。

◆ペットボトルに直接名前を書くと分かりづらいので、名札を立てて、名前が一目で分かるようにすることで、愛着が湧くようにする。



◆日当たりを重視するため、日当たりのよい場所を選びながら、まとめて育成させる。
 ◆アサガオに水をあげるときに、一緒に芝にも水をあげるよう助言する。
 ○芝の成長の様子に関心を持ち、愛着をもって育てようとしている。（観察、ワークシート）

児童の姿や気付き

- ・夏に近付くにつれ、ぐんぐんと伸びる芝を見て、芝が活着していることに気付くことができた。校庭の芝と同じで活着しているものだという事、自分で育てて実感をもっているようだった。
- ・芝の成長には日当たりが大切、という話をすると、日当たりのよい場所を選んで、時間によって置き場所を変えていた。休みの日の天気が雨だと知ると、屋根の下に移動させて、雨粒が直接当たらないようにしていた。
- ・芝刈りをすると、その後ぐんぐんと伸びる芝を見て、成長のはやさに気付くことができた。
- ・校庭の芝生を守るために、芝の中では自分から靴を脱いで遊んだり、履いているときは中に入らないようにして走って遊んでいた。

学習活動 ペットボトル芝生の補植

1 本時のねらい

- ペットボトルで育てた芝をもっと大きく育つように校庭に植えかえることで、芝生の育成の様子について気付き、自分の育てた芝だけでなく、校庭全体の芝生を大切にしようという態度を養う。

2 展開

	学習活動	◆指導上の留意点 ○評価規準（評価方法）
導入	1 芝を校庭に植え替える方法を聞く。 2 自分の育てた芝がどのくらい大きくなっているか、よく観察する。 ・もっと大きく育ててほしいな。 ・校庭でふかふかになってほしい。 	○芝の成長の様子に関心を持ち、芝に愛着をもって育てようとしている。(観察、ワークシート)

2 はさみで芝を切り、長さを調節する。



- ・ぐぐっと伸びて、横にも広がってきた。

- ◆葉を切ると成長がよくなることを説明する。
- ◆葉の高さの1/3以上は切らないように助言する。残った葉の高さは5cmぐらいになるように芝刈の時期を設定する。
- ◆横に伸びた芝は、そのまま横に植える。茎の節から根が生えることを教えるため、サツマイモと同じという例を挙げて説明する。
- ◆児童は、茎に水をかけようとする傾向が見られるので、土に水を与えるように指導する。

3 自分で育てた芝を校庭に植え替える。

①場所を決める。



②少しだけ地面を掘り、準備をする。

③ペットボトルから芝を取り出して植える。



- ◆間隔をとるよう助言する。



- ◆根がしっかり張っていないと、芝も土も一気に落ちるので注意させる。地面の近くでゆっくり傾け、落ちた砂も利用して植えるよう助言する。
- ◆根がしっかり張っている場合は、芝は固まっているので、出した後少しほぐしてから植えるよう助言する。
- ◆一つ一つ赤土を落とし、根をよく観察させる。

展開

ぺっとぼとるしば^ふ生の つくりかた

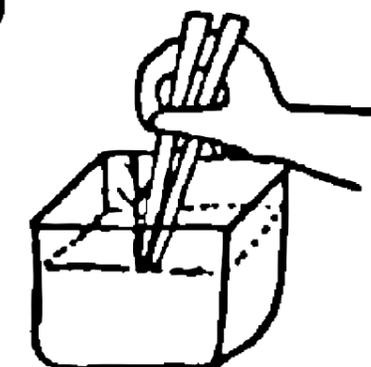
1・ぺっとぼとるに つちをいれて たいらにする



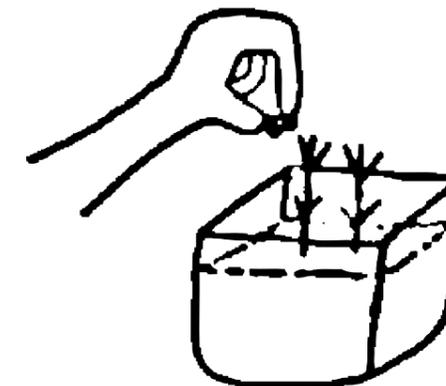
2・みずをいれて つちを めらす



3・なえを わりばしで うえる
(ねのぶぶんを はしで おしこむ)



4・ひりょうを まく
(ひとさしゆびと おやゆびで ひとつまみ)



5・かんそうはっぴょう



展 開	④少しだけ葉が見えるように土をかぶせる	◆横に長く伸びている芝には、節の部分にしっかりと土をかけるように助言する。 ◆児童は一か所に土をまく傾向があるので、全体的に土をかけるように助言する。
	⑤水を与える	◆じょうろなどを使って、全体にたっぷり水をかける。
ま と め	4 校庭に植え替えた芝に対する思いや感想を発表する。 ・たくさん育ってほしい。 ・ふかふかになってほしい。 ・しば ^ふ 生の上で遊んでみたい。 ・アサガオみたいに自分で世話をしてみたい。	○芝生を大切にしようとしている。(観察、ワークシート)

後日の活動

夏休みを経て、校庭で成長した芝生を観察に行った。



- ・ふかふかだね。
- ・たくさん育ったね。
- ・大切にしたいな。
- ・いっぱい伸びてるから、ほくのばしょがわからなくなっちゃった。

※児童たちは、自分が植えた場所がわからなくなってしまうほど、芝生が成長していることに驚き、ふかふかに成長していることに気付くことができた。「たくさん育ったね。大切にしたい。」という声が多く挙がった。

単元名 自分たちの芝生を知ろう

単元のねらい

- 一人一鉢ずつ用意することで、芝生にじっくりと関わったり、繰り返し関わったりしながら芝生に愛着を感じ、大切にしようとする態度を育成する。
- いつも遊んでいる校庭の芝生の様子に気付き、芝生を大切にしようとする態度を育成する。
- 身近な芝生を観察したり、育てたりすることで、四季の変化や季節によって生活の様子に関心を持ち、大切にしようとする態度を育成する。

学習活動 ペットボトル芝生の作成

- 1 本時のねらい
芝の苗の植え方や育て方を知ることによって芝に愛着を感じ、大切にしようとする態度を育成する。
- 2 展開

	学習活動	◆指導上の留意点 ○評価規準（評価方法）
導 入	<ol style="list-style-type: none"> 1 いつも遊んでいる校庭の芝生は、誰がお世話をしているのだろう。 ・先生たち ・校長先生 ・6年生のお兄さん、お姉さんたち。 2 ペットボトルで芝を育ててみよう。 ・そだててみたい。 ・どうやってうえるのかな。 ・ペットボトルでそだつのかな。 ・はやくやってみたいな。 ・そだて方は、アサガオやトマトと同じかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆学習の見通しを持たせる。 ◆作業の時間を守るよう指導する。 ◆芝の苗の植え方や決まりを指導する。 ◆スコップの安全な使い方を指導する。 

展 開	<ol style="list-style-type: none"> 3 ペットボトルに赤土を入れて、散水してから校庭の苗をさし込む。 4 日当たりのよい場所に置き、一つまみ施肥をする。 ・ひりょうは、大こんをそだてた時につかった。 ・ひりょうをあげると、大きくせい長した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆上から2cmぐらいまで、赤土を入れるように助言する。 ◆アサガオの栽培で使用したじょうろを使って、水を与えるように助言する。
ま と め	<ol style="list-style-type: none"> 5 感じたことを発表する。 ・むずかしいと思ったけど、い外とかんたんだった。 ・これから大きくなっていくのが楽しみ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○芝の苗を植える活動を通して、これから芝生の苗を育てようとしている。（観察、ワークシート） ○芝に愛着を感じ、大切にしようとしている。（観察、ワークシート）

児童の姿や気付き

- ・冬しばと夏しばでは、葉の色がちがう。
- ・夏しばは、なえからそだてるんだね。ナスやピーマンとっしょだ。
- ・夏しばもトマトやナスと同じで、毎日水をあげると、どんどん大きくせい長する。
- ・ナスやトマト、アサガオとちがって、はっぱは、小さい。
- ・ひりょうをあげると、大きくせい長する。
- ・しば生は、たくさん水をあげてもだいじょうぶそうだ。
- ・ナスやトマト、アサガオと同じように、日に当てた方がそだちがよさそう。
- ・しば生のねは、よこにのびているかんじがする。
- ・ナスやサツマイモとちがって、しばのはは、すべすべしている。
- ・ペットボトルでそだてると、しばのねがはっきり見えるね。
- ・しばは、なぜ花がさかないの。

学習活動 ペットボトル芝生の補植

1 本時のねらい

- これまでの芝の育成と、校庭に芝生を補植する作業を通じ、芝の成長の様子について気付き、より芝生を大事にしようとする気持ちと態度を育成する。

2 展開

	学習活動	◆指導上の留意点 ○評価規準（評価方法）
導入	1 校庭の芝生が傷んでいることに気付く。 ・ネットの前にしば生がないよ。 ・体いくそうこ前もしば生がはげているよ。 ・てつぼう前もしば生がないところがあるよ。日の当たりぐ合がわるいのかな。	◆校庭の芝生の観察をする際、時間を守るよう指導する。 ○芝を補植する必要がある場所に気付いている。（観察）

展開	2 校庭の芝生が傷んでいるところに植えよう。 ①育てた芝をどこに植えたらいいか考える。 ・ぼくたちがよくあそぶネット前にしば生をうえたい。 ・どうやってやればいいのか。 ・校庭に何をあけるのか。 ・どうやってペットボトルから出すのか。 ②芝を植える方法を聞く。 ③自分の芝を補植する場所を決め、スコップで穴を掘る。 ④両手いっぱい砂を持ち、自分の芝を植える穴に入れる。 ⑤ペットボトルから芝を取り出し、穴に植える。 ⑥水を与える。	 <ul style="list-style-type: none"> ○校庭のどこに芝生を補植すればいいのか主体的に考えている。（観察、ワークシート） ◆事前にネット前の土をほぐしておくよう指導する。 ◆スコップの安全な使い方を指導する。 ◆植える際、芝生を地面の高さと合わせて隙間がでないように助言する。 ◆じょうろなどを使って、全体にたっぷり水をかけるように助言する。 
	まとめ	5 感じたことを発表する。 ・ぼくたちのしば生を大せつにしていきたいと思うようになった。 ・そだてたしば生がみんなのやくにたっとうれしい。

板書計画①

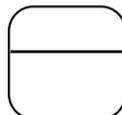
めあて
ペットボトルでしばをそだてよう

つかうもの

- ・ほうし
- ・シャベル
- ・ペットボトルのはち
- ・しばのなえ
- ・ジョウロ

なえのうえかた

- ・ペットボトルに赤土を入れて、水をあげてから校ていのなえをさしこむ。
- ・さいごにひとつまみ、ひりょうをまく。



じかん

9じ50ぶん～10じ15ぶんまで

かたづけかた

- ・シャベルはあらってから、バケツに入れる。
- ・かんせいしたはちは、かだんのまわりにおく。

板書計画②

めあて
校ていにわたしたちのそだててきたしばをうえよう。

つかうもの

- ・ほうし
- ・シャベル
- ・ペットボトルのはち
- ・すな
- ・ジョウロ

しばのうえかた

- ・シャベルで土をやわらかくする。
- ・あなをほったらすこし、土を入れる。
- ・ペットボトルからしばのなえをとり出し、あなに入れる。
- ・水をあげる。

じかん

9じ50ぶん～10じ15ぶんまで

かたづけかた

- ・シャベルはあらってから、バケツに入れる。
- ・かんせいしたはちは、かだんのまわりにおく。

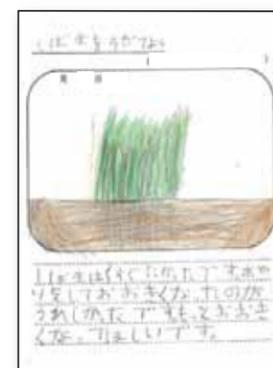
児童の姿や気付き

- 一人一鉢で芝を育てたことで、自分の鉢の芝に愛着をもったり、昨年育てたアサガオや今年育てている野菜と芝を比べたりして、似ているところや違いなど、多様な気付きを引き出すことができた。
- 毎日の水やりや雑草取りなどの世話を通して、自分たちの校庭の芝生を大切にしていこうという気持ちを育てることができた。
- 校庭に芝を植える時は、自分たちで大切に育てた芝が学校みんなのためになっているという達成感を味わわせることができた。



ぼくはしば^ふ生がきれいにみえてきれいにそだったと思いました。さわったらさらさらしていました。

みんなのためにそだってほしいです。



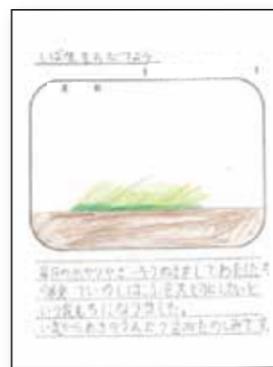
しば^ふ生はくすぐったかったです。水やりをしておおきくなったのがうれしかったです。もっとおおきくなってほしいです。



水をいっぱいやってぐんぐんしば^ふが多くなってうれしかったです。学校みんなのためになってうれしかったです。



しば^ふもアサガオややさいとおなじようにちゃんと水をあげないとそだたないことがわかりました。みんなのためにそだってほしいです。



毎日の水やりやざっそうめきをして、わたしたちの校ていのしば^ふを大切にしたいという気持ちになりました。

いまからあきのうんどう会がたのしみです。